

第10回

- 講演者: 本間 泰史 氏 (早稲田大学理工学部)
 - 題目: カシミール作用素とポホナー恒等式
 - 日時: 10月28日(月) 14:40 ~ 15:40
 - 場所: 数学科セミナー室 4号館 3階

ディラック作用素の主表象の代数的な構造は、クリフォード代数として知られている。我々は、ディラック作用素を共形共変一階微分作用素へ一般化し、その主表象の代数的な構造を調べる。実は、その主表象はリー環 $so(n)$ の展開環を用いて表せることがわかる。特に、一般カシミール元の関係式が微分作用素に対するポホナー恒等式（ポホナーワイゼンベック公式）に対応している。この意味で、universal Bochner identitiesを得ることに成功したと言えよう。ケーラー多様体の場合でも同様の議論が可能であり、この場合には $u(m)$ の展開環を用いることになる。

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2002/010>

Last update: **2017/11/27 11:31**

